



すぎぶち ゆきちゃん
(6さい)

アイスなら なんでも すきだから アイсыさんに なりたいな。いちばん すきなのは チョコの アイ ス。だから おすすめも チョコアイスなの。



おひさま保育園のおともだち



まつだ ようくん
(6さい)

おうちの おとうふやさん を てつだうんだ。おとう さん おかあさんは おじ いちゃん おばあちゃんに なっちゃうからね。うちの おとうふは おいしいよ。

がんばっているあなたがすぎ

シリーズ・ひと

夢をかなえられるよう努力を惜しまず 追いかけてきました

写真展「道東の四季」を開催した写真愛好家 高橋 米子さん(61歳・美里6)



9月1日〜30日の1カ月間、川湯エコミュージアムセンターで、弟子屈町、鶴居村、白糠町在住の女性3人による写真展「道東の四季」が開催されました。リーダー役となったのが高橋さん。これまで多くのコンテンツで入賞するなど、精力的に撮影を行っています。

12人とは写真教室で知り合いました。2人は写真歴3年ほど、わたしは9年ほどで一番長かったこともあり、2人に声をかけ、写真展を開催することになりました。

「道東の四季」とあるように、道東の自然が題材の作品です。写真を始めから、近くの自然へ足を運ぶようになりまし た。それまでは、弟子屈に住ん でいたにもかかわらず摩周湖にすら行ったことがなくて…でも行ってみたいなら、何て素晴らしいのかと。その後、砂湯や藻琴山などにも行くようになり ました。その時々々の自然の表情 が素晴らしいのはもちろんで、すが、本州などから来ているカ メラマンの方が、口々に道東の 自然の魅力語るのを聞き、あ らためて心を打たれました。以 来、道東ばかり撮影続けていま す。今は、風景と星空の撮影に こだわっています。

写真展開催のきっかけは？

「切り口は違うものの、わたしは3人は道東の自然に打たれて 撮っています。写真を通して、道 東の豊かな自然の素晴らしさを 感じていただき、見ていただいた 方々とその感動を分かち合いた いと思いました。また「自然の写 真は自然の中で見たい」と言っ てくださった方がいて、大好き なエコミュージアムセンターで 開催することにしました。

写真展にはたくさんの方が 足を運んでくれました。

写真の魅力は、撮影そのもの はもちろん、写真を通して人と 人との輪が広がっていくこと にもあります。撮影先で会った カメラマンや、写真の教室で出 会った方など、今は皆さんステ キな友人としてお付き合いさ せていただいています。写真展 では、見てくださった方とも交 流ができたのではと思います。

高橋さんが目指す今後とは？

「子どものころは内気で人と 話すこともできなかったわたし が、写真を通じていろいろな方 と交流を深め、人生の勉強もさ せていただきました。写真展や コンテストなど夢をかなえられ るよう、努力を惜しまず追いか けてきました。これからも、楽し いこと、苦しいことも仲間と共 に分かち合い、楽しく写真を写 し続けていきたいです。



寿扇吟詠会
会長・宮田 紀子さん
会員・8人



寿扇吟詠会の皆さん
後列右端が会長の宮田さん

詩吟とは、漢詩や和歌などを独特の節 回して吟ずる伝統芸能です。町内でもた くさんの方が詩吟に親しみ、教室やサー クルも数多くありますが、今回はその中 の一つ、寿扇吟詠会の皆さんをご紹介します。

設立は1995年。以来15年間で、会 員の入替わりはあったものの、長く活 動を続けてきました。週に1回、師範の



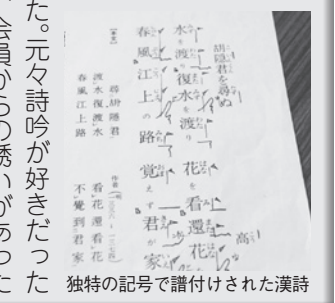
おけいこの様子(左)と指導を行う飯居寿岳さん(右)

「四季折々の情景 が詠まれた詩を心 を込めて吟ずるこ とは楽しいですし、 腹式呼吸でストレ ス発散ができて健 康にもとてもいい んです。ぜひ一緒 に やってみませんか」と会長の宮田さん は話していました。 興味のある方は、宮 田さん ☎482-4 343まで。

飯居寿岳さ んの指導の 下、詩吟を学 んでいます。

「ここ1年 ほどで、新し い会員が2 人入会しました。元々詩吟が好きだった ことに加えて、会員からの誘いがあつた ことがきっかけだそう。」「審査や大会な ど大変なこともあります。会員同士が 仲良く、和気あいあいと楽しめるので、 おけいこの日が楽しみです」と話してい ました。長い方で12年ほど続けているそ うですが、やはり楽しいからこそ続けら れることです。

審査というのは、年に1回行われる段 位昇段のための審査のことです。大会と は、年に一度行われる吟道大会のこと で、ほかに文化協会主催の春のまつりや 町の総合文化祭への出演もあり、おけい こにも熱が入ります。



独特の記号で贈付けされた漢詩